

生ける屍が帰ってきた! 80年代ゾンビ映画の 中核をなすコメディ風味のホラー

クラシック・シネマ

『バタリアン』

『エイリアン』の脚本家がゾンビ映画の始祖『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』の続編に挑戦。日本独自のネーミングのタールマンなど凝ったメイクのゾンビが多数登場。でも一番目立つのは走るゾンビ。その恐さ、その可笑しさは底なしです。

その昔、アメリカでは救急車は完全民営だった!

クラシック・シネマ

『走れ走れ! 救急車!』

ロスの民間救急車会社で働く面々の可笑しくもしんどい日常を軽いタッチでスケッチした一作。命の危険と隣り合わせの業務には驚くこと間違いなし。60~70年代のセックスシンボル、ラケル・ウェルチのエピソードには当時の社会における女性地位の低さが端的に現れています。

風雲急を告げる第二次世界大戦前夜、 危険を顧みない熱き友情を結んだ女たちがいた

クラシック・シネマ

『ジュリア』

20世紀アメリカを代表する女流劇作家リリアン・ヘルマンの回顧録を映画化。ジェーン・フォンダ&ヴァネッサ・レッドグレイヴという70年代の米英を代表する二大女優の対照的な演技戦、前半は情感、後半は緊迫感と緩急自在な名匠フレッド・ジンネマンの名演出は見もの。

三人の女。三つの悩める精神。 やがてそれらはひとつに溶け合う…。

クラシック・シネマ

『三人の女』

70年代アメリカ映画を牽引した鬼才ロバート・アルトマン監督が自らの夢からヒントを得た幻想的な女性心理映画。即興演技で生みだされた存在感溢れる三人のヒロイン、随所に顔を出す悪夢的イメージ、そして観る者に解釈を強いる不条理なエンディングはいつまでも記憶に残ります。

孤独な少年を守るため NYのマフィアを敵に回した炎の女グロリア

クラシック・シネマ

『グロリア』

ニューヨークインディーズ映画の雄ジョン・カサヴェテスが愛妻ジーナ・ローランズを主演に据えて作った女燃えアクションの逸品。独特の荒削りな語り口の中でローランズのカッコ良さがひと際光る。実は本作、かの『レオン』の元ネタになのです。